九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

賑わい感の創出に着目した広告景観コントロール手法に関する研究

金，明煥

https://doi.org/10.15017/1654987

出版情報：九州大学，2015，博士（芸術工学），論文博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

（様式６－２）

氏　　名	金　明煥
論　文　名	賑わい感の創出に着目した広告景観コントロール手法に関する研究
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　佐藤　優 副　査　　九州大学　　教授　　伊原　久裕 副　査　　九州大学　　教授　　清須美　匡洋

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

本研究は、屋外広告物の誘導方法を策定するにあたって、従来の方法が屋外広告物を抑制する方向であったのに対して「賑わい感」を重視した誘導の可能性を示した研究である。

序章では、研究の背景と構成を示している。

第１章では、これまでの研究と屋外広告物誘導の現状をまとめている。既往の研究を確認し、韓国の看板改善事業の意図と結果について触れ、さらに日本やアメリカなどの各地施策を検討している。

第２章では、広告景観における賑わい感について、店舗ファサードの調査を行い印象評価を行っている。人々が好むファサードの傾向を確認し、複雑度と賑わい感の関係を調べている。

第３章では福岡とソウルの屋外電光板による景観の特徴を調査している。

第４章では、電光板による動画像のコンテンツが景観に与える影響を評価している。

第５章では、賑わい感に着目した屋外広告物誘導の手法を検討している。看板改善事業において用いられたデザイン手法を調査・分析し、シミュレーション画像を作成して検証している。

研究の手続きとして、１）ソウル市の広告景観の評価、２）人々が好む広告景観の印象評価、３）賑わい感と複雑度に関する分析、４）福岡市とソウル市の屋外電光板の類型調査、５）屋外電光板の動画像が景観に与える影響に関する評価、５）韓国の看板改善事業の手法の調査・分析、６）研究成果を適用したシミュレーション画像による検証実験の７項目の調査実験分析を行ったものである。

この結果、従来の広告景観について否定的な評価を行い、近年行われてきた看板改善事業が整然とした都市景観の形成に役立ってきたが、その一方で人々がその結果を肯定的に捉えていないことを確認した。特に、屋外広告物を抑制することによって地域の印象を沈滞させる結果になっている場合があることに着目した。

また、都市景観における賑わい感は「複雑度」に影響され、その一方で、洗練性と親密性が良い評価につながることを確認した。

屋外広告物の誘導方法について、従来の誘導方法の中で欠落していた賑わい感を維持する方法について研究し、複雑度を減らすことによって好感度が増すが、複雑度を増すことによって賑わい感が増加することを確認した。また、立体映像提示装置を用いて、低層部の景観による影響が大きいことも確認した。開放感のある店舗づくりが好感を得やすいことも明らかにした。悪いと思われるデザイン要素が賑わい感を低下させ、これを減ずることにより好感度を増すことをシミュレーションによって実証した。これらの知見は、現場の状況を的確に捉え、今後の屋外広告物誘導に新たな視点を加えるものである。

金明煥は、本学大学院博士後期課程に在学し、屋外広告物の誘導方法に関する研究を続けていたが、韓国での大学教員の業務が多忙になり、単位取得退学をした。韓国における屋外広告物誘導の権威者のひとりとして知られており、実践的な経験を活かして、従来の指導方法に加えて「賑わい感」を論点とした新しい知見を加えた。指導の現場に関する経験を活かして有為な研究を行い、芸術工学にふさわしい独創的な研究をまとめた。

よって、本論文が博士（芸術工学）の学位に値するものであることを、本調査委員会は認めた。